



経済的だけではない "見えにくい" 子どもの貧困。少しでも多く社会参加の機会を。

松葉友恵さん (相談支援スタッフ・社会福祉士)

◆子どもの「生きていく力」を、 地域の大人が関わり育む重要性

困窮家庭ではお金がなくて生活できない「経済的貧困」のほかに、「体験の貧困」「関係性の貧困」があることが多い。地域・親戚などと関係が希薄だったり、親が行事に関心がなかったり余裕がなかったりして、社会参加の機会が失われていく。体験、関係性の貧困により、同世代と自分は「違う」という感覚が疎外感や劣等感を生み出すのではないだろうか。そこで、とちぎVネット内の学生・若者ボランティアチーム「Vレンジャー」の出番となる。彼らは子どもの体験の貧困をなくすために2019年からキャンプなどを企画している。また子ども食堂のボランティアにも参加し、地域のお兄さん、お姉さんのような存在として子どもに関わっている。相談員だけでは各家庭の課題を解決することはできない。子どもの貧困は見えにくく、大人よりも自分の力で現状を変えるのが難しい。しかし、同じ地域に住む人たちが少しずつ関わって、生きていく力を一緒に育むことができる。困窮している人に自業自得というのではなく、自分のできる限りの力で踏ん張っている人たち、子どもたちを、応援していきたい。

フードバンク (FB) でボランティアをするようになった3年前、「子どもの」貧困という言葉に対して疑問を持っていた。福祉に関わりだしたばかりで、恵まれた環境に育った自分には、子どもと大人の貧困が区別されることはピンとこなかった。疑問を持ちながら相談活動に同席して助けを求める人たちの声を聞いた。

◆5人の子どもを育てる夫婦。食卓を囲む経験なし？

5人の子どもがいる牧野希美さん(40代女性・仮名)は、親から譲り受けた一軒家に暮らしている。派遣社員の夫とパート勤めの希美さんで必死に働いても、7人家族の生活はいつも赤字。夫が交通事故を起こして賠償金を支払わなければならなくなり、病気を抱えて不登校状態の子どももいて課題は山積みだった。FBで食品支援をし、子ども食堂につないだ。子どもは当初、食堂で白米しか食べず、おかずをとって自由に食べることはしなかった。食卓を囲んで食べる経験がない様子だったという。のちに生活保護を利用するようになり、FBとの関わりは薄れていたが、今月になって食品が欲しいと連絡があり、一時的な支援をすることにした。細く長く、支援の糸が繋がっている家庭である。

◆「中学卒業したら、働きながら通信制高校に」

中学生の息子がいる本多忠勝さん(50代男性・仮名)は、なかなか仕事が続かず、同居する80代の母親の年金を頼ることが多くなっていた。FBでは明るくハキハキと話し、人懐こい印象の本多さんだが、職場で理不尽なことがあると耐えられず、怒りが爆発するようだった。過去に精神疾患を患ったこともあるといい、それが尾を引いているのかもしれない。不登校気味だった息子は、「中学を卒業したら働きながら通信制の高校に進む」と言っているようだ。(子どもが、家庭の状況を見ての決断だろうか?それとも、父親の意向だろうか?)何度もFBを利用して「手取り15万円の仕事を見つけた」と言い、それ以降の利用はピタリと止んだ。



◆第7回子どもの貧困撃退♡ チャリティ サンタ de ラン & クリーン

とちぎコミュニティ基金主催のチャリティイベントに寄付先団体として参加しました。12/18には300人のサンタ(寄付をした参加者やボランティア)が集い、子どもの貧困撃退を呼びかけました。通年で募金活動し、FBうつのみやには現時点で100万円を超える寄付を頂きました。ありがとうございます。子どもの貧困解決に食の面から寄与できるよう今後も活動していきます。

今月のSOS

FB 相談世帯数（食品提供回数）

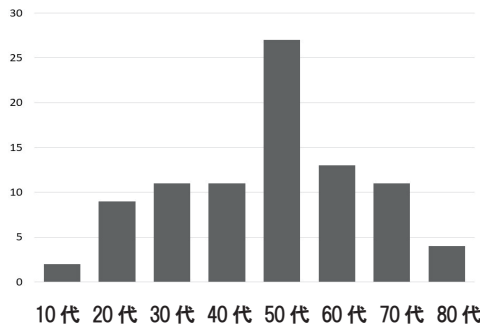
10月 134世帯（支援176回）

11月 151世帯（支援199回）

FB 主な利用理由(2022/10-11)* 複数回答・総数 285 人

低収入・低年金	失業・就職	精神疾患
	45	22
64	家賃滞納	病気・障がい
	18	15
	金銭管理	DV・離婚
	9	ケア
		3
		1 住所

FB 年代別 (2022/10-11) 新規利用者 90 人



制度・サービスにつながっていても困っています

コロナの影響での収入源、失職が途絶えません

今月のSOS の一部

※ FB 利用者の状況を一部加工して抜粋掲載。

10月 134世帯 (複数支援 176回)

10/4 ● D.T 女 70代・宇都宮市。「年金を7万円落としてしまい、次の年金まで困窮している」と担当のケアマネジャーからの連絡。

軽い認知症で調理は難しく、買い物、掃除はヘルパーを利用。⇒食品 5.7 kg 支援

10/7 ● R.O 男 30代・宇都宮市。離婚後すぐに家を出なくてはならなくなり、引越し費

用の補助を社協にお願いに行ったが収入が多く受理されなかった。その際にFBを紹介された。**引越し**をした結果、家財道具もお金も無くなってしまった。次の給料までの支援。⇒食品 5 kg 飲料 4 kg 支援

10/18 ● K.T 男 40代・宇都宮市。事故で働けなくなり離婚。精神2級の手帳を所持しているが年金未納のため障害年金はなく、生活保護の申請をしてきた。**所持金 400円**。借りたばかりのアパートはまだ電気ガス水道を契約していない。家財も何もない。⇒

調理不要の食品 9 kg 飲料水 12 kg 支援

10/21 ● J.T 女 40代・宇都宮市。20代娘と2人暮らし。ともに派遣で働いていたが、コロナ禍で仕事に就くことができず**無収入**に。ガスは止まり電気も今月で止まってしまうが収入の目途が立たない。生活保護の相談に市役所に行きFBを紹介された。⇒調理不要な食品 8 kg 支援

10/25 ● K.M 男 60代・宇都宮市。中国出身。30年ほど前に来日。清掃の仕事で生計を立てていたが**腰痛**がひどくなり、6月に退職。以後仕事見つからず昨日生保申請し受理された。⇒米 4 kg 食品 7 kg 支援

10/25 ● Y.G 男 20代・県外。妻と子の3人家族。茨城の知人宅に身を寄せていたが、妻の派遣の仕事が決まり栃木にきて**車上生活**中。妻は県南にある会社の独身寮に入り、本人は11月から県外での仕事が決まっており小5の息子と家族寮に入居予定。何も食べるものがなくなり、社協を訪れた際にFBを紹介された。⇒調理不要の食品 8 kg 支援

10/27 ● A.K 男 50代・宇都宮市。保健所職員が代理で来所。母と2人暮らしをしていたが、本人の暴力がひどくなり母を避難させたため独居になった。精神2級。**障害年金**だけでは生活が成り立たなくなるので、日中の居場所と生活保護の取得に向け保健所が支援中。⇒パックご飯中心に 8.2 kg 支援

FBでたすかりました おとなになってから発達障害判明 周囲とうまくいかず絶望したが...

榎 貴史さん (仮名 37歳)

私は、小学生から高校生まで理由がわからないが同級生や先生とトラブルになることが多かった。親とも関係が悪く高校卒業後、県外で働くことを選択しました。移住先でも職場の人間関係がうまくいかず、精神疾患となり挙句の果てに発達障害であることを知らされました。人生がうまくいかない原因は判明しましたが、ショックで日常生活もまともに遅れなくなり、仕方なく親元に戻ることにしました。しかし、親、医者、役所、支援機関ともうまくいかず孤立してしまいました。

手持ちのお金も尽きて、ダメもとでフードバンクに電話をして事情を話すと特別に自宅まで食品を届けてくれました。絶望的でしたが、少しだけ人を信じてあげることができそうです。



SOSの途中

■着の身着のまま寮を飛び出し

長年温泉地の住み込みホテル従業員として働いてきた原さん。10/6の朝、若い従業員仲間と言い争いをしてしまった。仕事のやり方にこだわりのある原さんは、若い従業員の作業のいい加減さが気になっており、強い口調で怒ってしまった(原さんは注意のつもり)。それを発端に他の従業員たちとも話ができなくなり、着の身着のままホテルの寮を飛び出してきてしまった。

FBを訪れたのは11/17。仕事を辞めてから1ヶ月半が経っていた。その間は駅などで雨宿りし、ホームレス状態だった。

■うまくいかない相談。何か理由が？

「住所を定めて仕事を探したい」と宇都宮市の生活福祉課に相談に行った原さん。すると「寮付きの仕事を探すように」と、併設されている宮ハローワークで紹介してもらい、応募できそうな仕事を選ぶことになった。「仕事が決まるまで、FBで食品を頂くように」と案内され、FBに来所した。

数週間のホームレス状態とはいえ、一見人懐っこい感じの原さんは、老夫婦が営む餃子屋の手伝いを週2日ほどおこなっていた。「住むところさえあれば、新しい仕事を探し、餃子屋との掛け持ちで生活を再建しよう」と生活保護申請を考えた。しかし生活福祉課から「住込みでの仕事を探すように」と言われ、戸惑ってしまったという。

ホームレス状態の人は、アパートの見積書を提示することが出来れば生活保護の住宅扶助で賃貸契約を結ぶことが出来る。4回くらい生保窓口でそのことを訴えても、住み込みの仕事

本人も気づかなかった病気

原 大介さん(仮名 53歳)

探しを促された。何故そのようになってしまったのか?はなはだ不思議に思えてきた。その理由のひとつに、原さん本人のある体験にあったのではないだろうかと考えた。

■大けが…高次脳機能障害疑い

7年前の冬、働いていた温泉ホテルで、積もった雪の除去作業中に高所から転落し大けがを負った。頭蓋骨骨折、脳挫傷、

全肋骨骨折、肺挫傷だった。病院に搬送され労災保険で治療し回復したとのこと。これに加えて、突然仲間とケンカしてしまったことや、退職の意思を表明せず後先考えずホテルを飛び出してしまったこと。またFBでも気になっていることを繰り返して話すことなどの様子から、以前の大けがと結びつけてみるとひとつの病気が考えられた。

「大けがしてから、人が変わったとか、怒りっぽくなったとか言われませんでしたか?」

「はい。そんな風にいわれたことがあります」。

多分、原さんは大けがの後遺症で高次脳機能障害を発症したのではないかと考えられた。本人も気付かず今まで生活してきたのだろう。生活福祉課や宮ハローワークの窓口では、「過去の大けがの影響で『高次脳機能障害』の疑いがある」と話すように説得した。

それから数回市役所へ行き住み込みの仕事を探す中で、市内のビジネスホテルで雇ってもらえることになった。原さんは、「仕事と住まいが出来た」「ホテルの社長から、餃子屋さんにもアルバイトに行っても良いよと言われた」と嬉しそうに話してくれた。

・ヒトの脳には、呼吸や血圧、体温など生命を維持する機能のほかに、①手や足を動かす機能 ②音やにおい、手触りなどを感じる知覚機能 ③記憶、認知、感情、言語などを支配する高次脳機能 という3つの機能がある。このうち③は、霊長類、とりわけヒトにおいて最も発達した機能なので「高次」といわれている。

・事故や病気によって脳が損傷を受けると、損傷した場所によって様々な症状があらわれる。その中でも、高次脳機能に障害が起きた状態を高次脳機能障害という。

『高次脳機能障害者支援マニュアル(医療と福祉の連携)』：栃木県』より



小澤勇治 ● 本会職員

11月151世帯(複数支援199回)

11/5 ● T.S 女 30代・宇都宮市。京都で就労していたが、**鬱状態**がひどくなり1年の休職を経て退職。同時に発達障害(ADHA)の診断も受け、障害厚生年金2級受給。宇都宮の実家に帰ってきたが、父との折り合いが悪く病状が悪化したため一人暮らしを始めたところ、お金が無くなってしまった。⇒食品7kg支援

11/8 ● K.F 男 50代・宇都宮市。10/20に**刑務所を出所**し地元の宇都宮に帰ってきた。知人のおかげでアパートを借りることができ、生活保護の申請もしたが、手持ち金

がなく食品が購入できない。ガス、電気はまだ使えない。⇒缶詰パン、α化米5kg支援

11/8 ● S.T 男 80代以上・宇都宮市。80代の両親と精神疾患の娘の3人家族。家族全員が**コロナ感染**し、困窮状態であることが発覚。地域包括支援センターより、食糧支援の要請が入った。⇒食品7kg支援

11/15 ● K.T 女 40代・宇都宮市。両親が亡くなってから**ホームレス**になった。駅でAさんと知り合いになり、今はAさん宅に泊めさせてもらっている。お金もなく、これからどうしたらいいかわからない。⇒食品3kg支援

11/16 ● J.T 女 50代・宇都宮市。シン

グルマザー。長男は東京で一人暮らしの大学4年生。高校一年生の次男と2人暮らし。安定した収入があったが、コロナ休めで収入が減ったところに支払いが重なり所持金2000円になってしまい困窮。給料日までどうしようかと悩み、ネット検索でFBを知った。⇒米15kg食品4kg支援

11/25 ● S.S 男 30代・宇都宮市。アルコール依存症の復帰プログラムで就労移行支援を利用し就職。1年半ほど安定して働いていたが、今年の6月に**大量の飲酒**し崩れた。現在復帰のため仕事量を調整していることにより収入減で困窮。⇒米3kg食品4kg支援

フードバンク応援団！

SDGs 目指し、百貨店従業員向けにフードドライブ

株式会社福田屋百貨店 ブランディング推進室室長 宇賀神徹也さん



宇都宮市を中心に事業を運営して来た福田屋百貨店です。これからは、今まで以上に栃木の皆様と連携しながら栃木を魅力的な土地になるよう貢献して行きたいと考えております。今年の9月にSDGsプロジェクトがスタートしました。その一環として、食品ロス削減を進めるにあたり、FBの存在を知りました。身近に食品がなくて困っている方がいる事を知り「社内でFBに食品を寄付しよう！」という流れに。さっそく2回フードドライブ(食品回収)を実施しました。今後も、継続的に年数回の社内向け・取引先向けのフードドライブを実施する予定です。従業員のフードバンク活動への理解を深めて、将来的にはお客様向けのフードドライブを実施したいと考えております。また、子ども食堂への支援も含めて、地元栃木・宇都宮の皆様と連携しながら魅力的な街づくりに協力して行きたいと考えております。

ボランティアのつぶやき 高橋清人さん (30代)



相談ボランティアの経験を、 子ども食堂でも生かしたい

今年8月、子ども食堂の相談にときぎVネット事務局を訪れた。Vネットの矢野さんが子ども食堂に携わる方々にすぐその場で、繋いでくださり、貴重なお話を聞かせていただいた。おかげで12月に子ども食堂をオープンできた。また、事務局を訪れた際、10年以上前、学生の頃お世話になった方がいらした。話を聞くとFBうつのみやの相談ボランティアを行っている。子ども食堂でも相談支援の経験はきっと役に立つと思い、現在、お礼と勉強の意味を込めて、月数回、相談ボランティアをさせていただいている。Vネットで私は助けてもらい、様々なご縁に恵まれた。この喜びを胸に、相談者にも少しでも喜んでもらえるよう取り組んでいきたい。
●高橋さんは、宇都宮市大曾で、宮つこの居場所&子ども食堂「さくら」を開所しました。応援よろしくをお願いします!



予告・2/25(土) きずなの食品配布会

お米や乾麺中心の「きずなの食品配布会」を、2/25(土)に泉が丘支所で行います。コロナ禍での失業や、子育て、不安定な労働環境にいる人・学生など、様々な事情で生活が苦しい人に、少しでも生活の一助となれば、ということで偶数月に配布会を行っています。詳細は2月初旬頃お知らせします。継続して行うためには、皆様からの食品や活動資金のご寄付が必要です。引き続き、ご協力をお願いします。

F B ボランティア募集

●問 /028-348-3412
おきがるに ご連絡ください

- ・相談聞き取りボランティア★大募集
FBに「食品ほしい」と来る人の話を聞きシートに記入します。不安な人は研修も受けられます。1回2時間、週1・2回程度。
- ・食品回収ボランティア★大募集
スーパーや施設へきずなボックスの食品の回収のために車を運転します。月2~4回。
- ・食品管理ボランティア
入庫した食品の賞味期限を確認し、期限ごとに食品棚に並べます。相談者へ渡す食品も準備します。週に1~2日、3時間位が目安。
- ・パソコン入力ボランティア
食品の入庫・出庫伝票のデータをパソコンに打ち込みます。週1回程度。

会員・寄付者 ありがとうございます♡

11/30 現在：正会員62人、賛助159人、団体14、学生2)
《10~11月の新規・継続会員》※敬称略

- 正会員 / 高橋昭彦 匿名
- 賛助会員 / 池内祐介
- 団体会員 / 積水ハウス株宇都宮支店 積水ハウス不動産東京神崎玉・北関東営業部 積和建設 埼玉栃木株宇都宮支店 積水ハウス株栃木カスタマーズセンター とちぎコープ
- 《10~11月の寄付者》※敬称略
- 小林茂之 百目木礼子 社会福祉法人みゆきの社 新田ゴルフ会 八洋輪 鈴木登 恵光寺 鈴木トシ子 芙蓉地質株式会社 他7名



◆会費(年間)

◎正会員	12,000円
◎賛助会員	3,000円
◎団体会員	30,000円
◎学生サポーター	1,000円

「もったいない」を
「ありがとう」に。
会員を大募集中!
ボランティアも

会費・寄付はこちら ※匿名希望の方はご連絡ください

- 銀行
栃木銀行 馬場町支店 普通 1086399
名義 / 特定非営利活動法人フードバンクうつのみや 理事徳山篤
※領収書発行のため、メールか電話で、氏名と連絡先をご一報ください。
- 郵便局
宇都宮 00260-2-90882
特定非営利活動法人フードバンクうつのみや
- Webサイトから
クレジットカードでのご寄付もできます。

HP Twitter